

(完2、可2)

国立大学法人北陸先端科学技術大学院大学  
第123回経営協議会議事要録

日 時 令和7年11月21日(金) 14:00～15:15  
場 所 北陸先端科学技術大学院大学 第1・第2会議室 (JAIST国際セミナーハウス1階)  
出席者 寺野稔(議長)、永井由佳里、飯田弘之、河野広幸、黒田壽二、細野昭雄、  
岩澤康裕、金井豊、小原奈津子及び中尾正文の各委員  
欠席者 井熊均、小俣一夫、仲井培雄、馳浩委員  
オブザーバー 谷口徹監事、水野一義監事、上原隆平研究科長、丹康雄副学長、水田博副学  
長、神田陽治副学長、永田晃也副学長、西村拓一副研究科長、田中清史副研  
究科長、大島義文副研究科長、林幸雄融合科学共同専攻長及び石川県企画振  
興部企画課高等教育振興・国際機関連携グループ竹中グループリーダー

議事に先立ち、議長から、事前に送付した第122回経営協議会の議事要録(案)につい  
て、資料1に基づき説明があり、原案のとおり承認された。

<意見交換>

1 本学の研究面での取組について

永井理事から、本学の研究面での取組について、資料2に基づき説明があった。

2 本学の教育面での取組について

飯田理事から、本学の教育面での取組について、資料3に基づき説明があり、その後、  
意見交換が行われた。

- ・採択された2件は、採択率が非常に低く競争率の高い中での採択であり、今後プラスに  
働く非常に良い成果だと思う。今後、既存の教育体制と研究システム組織があり、改革・  
改善に努められている中で、この2件をどのように組み込んでいくか確認したい。

⇒FLAGsについては、金沢大学と連携している融合領域を、発展的により強化する方向で検  
討を進めている。現在は少数ながら優秀な学生が集まっており、これを全学に展開しな

がら、この融合領域の世界を広げていくことを目的の一つとしている。これはこれまで本学が進めてきた金沢大学との融合領域の取り組みを、さらに発展させる良い契機になると考えている。電気通信大学との件については、博士後期課程への進学を活性化することを目的としており、学生を進学させることを前提に、学生の経済的支援を国からの資金により補填する仕組みである。これは、これまで本学が進めてきた、修士課程の学生が将来その企業に就職することを前提として、企業支援による授業料等の経済的支援を受けて博士後期課程へ進学するという取り組みと重複するものである。本採択も従来の取り組みをさらに発展的に推進できると捉えている。

- ・ JUMPは非常に面白い取り組みだと思われるが、現在のところどの程度の規模感を考えているのか。

⇒今年正式に開始、4月・10月を合わせて10名を予定のところ、6名の入学となっている。来年は20名、翌年は30名を予定している。その後、査定を経て継続となれば、40名、50名と拡大していく見通しである。以降、博士前期課程に50名が入学となると、M1とM2を合わせて100名となる。その半数以上が博士後期課程に学内進学すると、百数十名の卓越した留学生が本学で研究力強化に貢献してくれると考えている。

### 3 『人類知性科学』の創成及びエルゼビアとの連携について

学長から、『人類知性科学』の創成及びエルゼビアとの連携について、資料4に基づき説明があり、その後、意見交換が行われた。

- ・ AIの技術的な進歩は海外を中心に進められており、これにより何十年先の子どもたちの方向性を左右しかねない重要な局面に来ている。AIが哲学と結びつくかについては明確ではないが、金沢は東洋哲学を基盤に持つ地域であることから、本学の立ち位置の良さを生かしてAI時代における人類知性科学の分野を強化していくことを期待したい。

⇒AIと知性に関しては、AI知性の研究領域を新たに立ち上げる予定である。今後、一層本格化する人類知性の研究や取り組みと合わせ、AIと知性とのつながり、人類としての立ち位置を明確にしたうえで、AIの発展への貢献を進めていきたい。

- ・ 産業界では、セキュリティの問題が事業継続にまで影響を及ぼす事態となっている。先端大の周辺にはセキュリティ関連の拠点もあり、セキュリティ面でも非常に良い立ち位置にいる。経産省は重要インフラに対しては以前からセキュリティにおける具体的な基準を示している一方、一般企業に対しては明確な方向性が定まっていない状況である。AIの進化に伴い、より強力なセキュリティ犯罪が発生する可能性も十分にあるため、この2点につ

いては先端大として重点的に強化する方向で良いと考える。

⇒重要インフラについては、東日本大震災以降、特にセキュリティ対策を含めて大きく注力してきた経緯がある。一方で、現在はサプライチェーンが狙われるという時代に変化してきている。県内企業については、セキュリティ成熟度が十分ではない印象があるため、適切にサポートする仕組みを検討していく必要性があるのではないかと考えている。

- ・第4世代大学としてエルゼビアと関わるとのことであったが、大学にとって負担になるのではないかと懸念されるがどのようにお考えか。

⇒4GUの委員を務める小泉副学長に対応いただいております、Matching HUBをはじめとする日本の地方創生の取り組みについて、働きかけを進めている。4GUが世界的なレベルでどの程度定着していくかということはあるが、本学がすでに取り組んでいる活動をアピールするというレベルであり、大きくは負担にはならないと考えている。また、AI for Researchersの開発支援については、開発そのものの9割以上はエルゼビアが担っている。本学から新たに開発者を任命して全面的に協合するというだけでなく、開発の中心メンバーと密接に連携し、進行状況等の情報提供を受けながら、実際にAI for researchersを使用し、意見を出す形で開発に協力している。一方で、直近もエルゼビアからの対外発信の中で、本学の考え方やコメント等が引用される事例があり、本学としては比較的少ない労力でプレゼンス向上につながれると考えている。

#### 4 Matching HUB Hokuriku 2025及びMatching HUB Nagano 2025について

学長から、Matching HUB Hokuriku 2025及びMatching HUB Nagano 2025について、資料5に基づき説明があった。

## 議 事

### <審議事項>

#### 1 令和7年度補正予算について

会計課長から、令和7年度補正予算について、資料6に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

#### 2 共同研究及び技術サービス等契約における間接経費の見直しについて

共創活動推進課長から、共同研究及び技術サービス等契約における間接経費の見直しについて、資料7に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

### <報告事項>

#### 1 学内規則の制定改廃

##### ・職員給与規則等の一部改正について

人事労務課長から、職員給与規則等の一部改正について、資料8に基づき報告があった。

##### ・役員報酬規則の一部改正について

人事労務課長から、役員報酬規則の一部改正について、資料9に基づき報告があった。

#### 2 最近の本学の活動状況について

広報室長から、最近の本学の活動状況について、資料10に基づき報告があった。

### <その他>

#### 1 次回の開催について

議長から、次回の本協議会の開催を令和8年3月19日（木）に予定している旨の説明があった。

## 資料

- 1 第122回経営協議会議事要録（案）
- 2 本学の研究面での取組
- 3 教育連携 FLAGs と学生獲得における多様性 JUMP
- 4 『人類知性科学®』の創成と、エルゼビアとの連携に関するご説明
- 5 Matching HUB Hokuriku 2025及びMatching HUB Nagano 2025について
- 6 令和7年度補正予算（案）について
- 7 共同研究及び技術サービス等契約における間接経費の見直しについて（案）
- 8 国立大学法人北陸先端科学技術大学院大学職員給与規則等の一部改正について（案）
- 9 国立大学法人北陸先端科学技術大学院大学役員報酬規則の一部改正について（案）
- 10 最近の本学の活動状況について